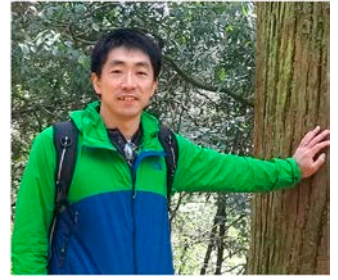


研究室紹介



東京農工大学農学部環境資源科学科 准教授 渡辺 誠 研究室



● 渡辺誠研究室の概要

渡辺誠研究室は2013年11月に誕生しました。今号発刊時点でちょうど9年になります。これまでに15名の卒業生と7名の修了生を送り出しました。現在は、博士課程1名、修士課程4名、学部4年生3名が在籍しています。となりの研究室であり、私の出身研究室でもある伊豆田研究室の皆さんと協力しながら、日夜研究に取り組んでいます。

● 研究テーマなど

本研究室では変動環境下における樹木生理生態学を研究しています。特に地表面付近のオゾン、高濃度CO₂、窒素沈着量の増加そして気候変動などに対する樹木の応答解明を主なテーマとしており、近年は都市緑地における樹木の大气浄化能力に関する研究も行っています。実験と野外調査の二つの手法を柱としており、実験では、ポットに植えた苗木を対象にオゾン曝露などを行い、植物応答を調べます。野外調査では、山の中から都市緑地まで様々な環境に生育する樹木を対象に、その特性や機能を調査します。いずれの手法においても樹木の成長、光合成活性、水・炭素・窒素などの利用特性、食害抵抗性などの評価を行います。これらの結果や文献調査に基づいた、樹木の環境応答に関するモデリングにも取り組んでいます。

● 研究室の一年

所属学科(環境資源科学科)では3年次の11月に研究室への分属が決まります。分属してしばらくは文献紹介ゼミに参加したり先輩のお手伝いをしたりしながら、研究室に慣れていきます。研究テーマが決まるのは翌年3月で、4月の木々の出葉とともに研究が本格化。夏場は書き入れ時ですが、大学院入試が例年8月下旬にあるため、4年生は研究、ゼミ発表そして受験勉強と忙しい日々を過ごします。葉の光合成速度などの測定や分析試料のサンプリングは落葉期(9~10月)まで続き、それ以降はサンプリングした試料の分析やデータ解析などを行います。忙しい生活を送る渡辺誠研の学生ですが、何時でもどんな内容でも教員(渡辺)に相談することができます。なお教員は親身になって相談に乗りますが、大抵の場合、学生は教員のなが〜い話を聞くこととなります。12~翌1月に卒論・修論の執筆や発表準備を行い、2月の発表会を終えるとひと段落です。しばしの休憩の後に次年度に向けた準備が始まります。3月には卒業旅行そして卒業・修了式があり、一年が終わります。

● 面白い研究をやりましょう!

渡辺誠研究室では共同研究を随時募集しています。実現可能かどうかはさておき、森林や樹木と大気環境の関係に関する研究に興味がある方はお気軽にお問い合わせください!

経 歴	
1976年	北海道生まれ
1999年	東京農工大学農学部環境資源科学科 卒業
2007年	同校博士課程修了: 博士(農学)
2008年	北海道大学農学部(ポスドク)
2013年	東京農工大学農学部環境資源科学科 テニュアトラック准教授を経て、やっとパーマネントの准教授



葉の光合成速度の測定



ロープクライミングによるスギ成木の葉の採取(D1の田中亮志くん)



2021年度の卒業・修了式(伊豆田研と合同写真)上にやや飛び出しているのが渡辺と伊豆田先生